

# 余市町森林整備計画

計画期間 自 平成25年4月 1日  
至 平成35年3月31日

(平成29年3月28日変更)

北 海 道  
余 市 町

## 計画変更の理由と始期

### 1 変更理由

地域森林計画の変更に伴う変更

### 2 変更始期

平成29年4月1日から適用する。

# 目 次

|    |  |    |
|----|--|----|
| I  | 伐採、造林、保育その他森林の整備に関する基本的な事項   | 1  |
|    | 1 森林整備の現状と課題   | 1  |
|    | 2 森林整備の基本方針  | 1  |
|    | 3 森林施業の合理化に関する基本方針   | 3  |
| II | 森林の整備の方法に関する事項   | 3  |
|    | 第1 森林の立木竹の伐採に関する事項（間伐に関する事項を除く。）   | 3  |
|    | 1 立木の伐採（主伐）の標準的な方法   | 3  |
|    | 2 樹種別の立木の標準伐期齢   | 4  |
|    | 3 その他必要な事項   | 5  |
|    | 第2 造林に関する事項  | 6  |
|    | 1 人工造林に関する事項   | 6  |
|    | 2 天然更新に関する事項   | 8  |
|    | 3 植栽によらなければ適確な更新が困難な森林の所在  | 9  |
|    | 4 森林法第10条の9第4項の伐採の中止又は造林の命令の基準   | 12 |
|    | 5 その他必要な事項   | 12 |
|    | 第3 間伐を実施すべき標準的な林齢、間伐及び保育の標準的な方法<br>その他間伐及び保育の基準                                | 13 |
|    | 1 間伐を実施すべき標準的な林齢及び間伐の標準的な方法  | 13 |
|    | 2 保育の作業種別の標準的な方法   | 13 |
|    | 3 その他間伐及び保育の基準   | 14 |
|    | 4 その他必要な事項   | 14 |
|    | 第4 公益的機能別施業森林の整備等の森林の整備に関する事項  | 16 |
|    | 1 公益的機能別施業森林の区域及び当該区域における森林施業の方法   | 16 |
|    | （1）水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林   | 16 |
|    | （2）土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能、快適な環境の形成の<br>機能又は保健機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林          | 16 |
|    | 2 木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の<br>区域及び当該区域における森林施業の方法                       | 17 |
|    | （1）区域の設定   | 17 |
|    | （2）森林施業の方法   | 17 |
|    | 第5 作業路網その他森林の整備のために必要な施設の整備に関する事項  | 18 |
|    | 1 路網の整備に関する事項  | 18 |
|    | （1）効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び作業システム<br>並びに作業路網等整備とあわせて効率的な森林施業を推進する区域に<br>関する事項 | 18 |
|    | （2）作業路網の整備及び維持運営に関する事項   | 19 |
|    | （3）基幹路網の維持管理に関する事項   | 19 |
|    | 第6 委託を受けて行う森林の施業又は経営の実施の促進に関する事項   | 19 |
|    | 1 森林の経営の受委託等による森林の経営規模の拡大に関する方針  | 19 |
|    | 2 森林の施業又は経営の受託等による規模拡大を促進するための方策   | 20 |
|    | 3 森林の施業又は経営の受託等を実施する上で留意すべき事項  | 20 |

|     |                                   |    |
|-----|-----------------------------------|----|
| 第7  | 森林施業の共同化の促進に関する事項                 | 21 |
| 1   | 森林施業の共同化の促進方向                     | 21 |
| 2   | 施業実施協定の締結その他森林施業の共同化の促進方策         | 21 |
| 3   | 共同して森林施業を実施する上で留意すべき事項            | 21 |
| 第8  | その他森林整備の方法に関し必要な事項                | 22 |
| 1   | 林業に従事する者の養成及び確保に関する事項             | 22 |
| 2   | 森林施業の合理化を図るために必要な機械の導入の促進に関する事項   | 22 |
| 3   | 林産物の利用の促進のために必要な施設の整備に関する事項       | 23 |
| Ⅲ   | 森林の保護に関する事項                       | 24 |
| 第1  | 鳥獣害の防止に関する事項                      | 24 |
| 1   | 鳥獣害防止森林区域及び当該区域内における鳥獣害防止の方法      | 24 |
| (1) | 区域の設定                             | 24 |
| (2) | 鳥獣害防止の方法                          | 24 |
| 2   | その他必要な事項                          | 24 |
| 第2  | 森林病虫害の駆除及び防除、火災の防除その他の森林の保護に関する事項 | 25 |
| 1   | 森林病虫害の駆除又は予防の方法等                  | 25 |
| (1) | 森林病虫害の駆除及び予防の方針及び方法               | 25 |
| (2) | その他                               | 25 |
| 2   | 鳥獣による森林被害対策の方法                    | 25 |
| 3   | 林野火災の予防の方法                        | 25 |
| 4   | 森林病虫害の駆除等のための火入れを実施する場合の留意事項      | 26 |
| 5   | その他必要な事項                          | 26 |
| (1) | 病虫害の被害を受けている等の理由により伐採を促進すべき林分     | 26 |
| (2) | その他                               | 26 |
| Ⅳ   | 森林の保健機能の増進に関する事項                  | 26 |
| Ⅴ   | その他森林の整備のために必要な事項                 | 26 |
| 1   | 森林経営計画の作成に関する事項                   | 26 |
| 2   | 森林の整備を通じた地域振興に関する事項               | 27 |
| 3   | 森林の総合利用の推進に関する事項                  | 27 |
| 4   | 住民参加による森林の整備に関する事項                | 27 |
| 5   | その他必要な事項                          | 27 |

# I 伐採、造林、保育その他森林の整備に関する基本的な事項

## 1 森林整備の現状と課題

本町は、後志の上部に位置し、余市岳を水源とする余市川が町の中央を南北に流れ、町を2つに分けております

町内河川の余市川・フゴッペ川・登川・ヌッチ川・梅川とその各支流沿いに耕作地が開け、集落が形成されており、その中のひとつであるヌッチ川の上流には、畑地かんがいの余市ダムが昭和62年に完成しております。

余市町の総面積は、14,060ha でうち森林面積は9,345ha で総面積の67%を占めており、内訳としては、一般民有林3,229ha、国有林6,116ha となっており、一般民有林のうちカラマツ及びトドマツを主体とした人工林の面積は、1,236ha であり人工率38%となっております。

また、本町の森林水質汚濁防止、山地崩壊防止、水源かん養、国土保全及び自然環境の保全等の公益的機能を目的とするものが多くを占めている中で、個人所有の森林面積の内1,460ha が不在村者であることから、以下のような課題が挙げられる。

不在村者が自己所有している山林の状況を把握しておらず、適正伐期を過ぎたものや、過密による林木の不揃いになるなど、適正な管理が成されていない。天然林については総じて更新不良であるが、針葉樹の混交比率も高いため択伐林に誘導可能な林分であるので、植込み、保育等を積極的に行い、生産力の増大と公益的機能強化を図る。

## 2 森林整備の基本方針

森林の整備保全に当たっては、森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させるため、生物多様性の保全及び地球温暖化の防止に果たす役割並びに近年の地球温暖化に伴い懸念される集中豪雨の増加等の自然環境の変化も配慮しつつ、適正な森林施業の実施や森林の保全の確保により、健全な森林資源の維持造成を推進するとともに、その状況を的確に把握するための森林資源のモニタリングの適切な実施や森林GISの効果的な活用を図ることとします。

このため、森林を地域の特性、森林資源の状況並びに森林に関する自然的条件及び社会的要請を総合的に勘案し、それぞれの森林が特に発揮することを期待されている機能に応じて森林の有する公益的機能の維持増進を図るべき森林としての公益的機能別施業森林と、木材等生産機能の維持増進を図る森林（以下「木材等生産林」という。）の区域を設定するとともに、公益的機能別施業森林については、水源涵養機能の維持増進を図る森林について「水源涵養林」、山地災害防止機能又は土壤保全機能の維持管理を図る森林について「山地災害防止林」、住民にとって快適な環境を形成する機能の維持増進を図る森林について「生活環境保全林」、及び保健・レクリエーション機能、文化機能又は生物多様性保全機能の維持増進を図る森林について「保健・文化機能等維持林」の区域（以下「森林の区域」という）を設定します。

この森林の区域に応じた望ましい森林の姿を誘導するため、育成単層林における的確な更新や保育及び間伐の積極的な推進、広葉樹林化・針広混交林化を含め、人為と天然力を適切に組み合わせた多様性に富む育成複層林の計画的な整備、天然生林の的確な保全及び管理等に加え、保安林制度の適切な運用、山地災害や野生鳥獣被害等の防止対策の推進等により、重視すべき

機能に応じた多様な森林の整備及び保全を図ることとします。

また、林道等の林内路網は、効率的な森林施業や森林の適正な管理経営に必要不可欠であり、農山村地域の振興にも資することから、計画的な路網整備を推進することとします。

なお、森林の区域ごとの望ましい森林の姿並びに森林の整備及び保全の基本方針は次表のとおりとします。

【森林の区域と森林の整備及び保全の基本方針】

公益的機能別施業森林

| 重視すべき機能                            | 森林の区域       | 望ましい森林の姿   | 森林の整備及び保全の基本方針  |
|------------------------------------|-------------|--|---|
| 水源涵養機能                             | 水源涵養林       | 下層植生とともに樹木の根根が発達することにより水を蓄える隙間に富んだ浸透・保水能力の高い森林土壌を有する森林であって、必要に応じて浸透を促進する施設等が整備されている森林。   | 良質な水の安定供給を確保する観点から、適切な保育・間伐を促進しつつ、下層植生や樹木の根を発達させる施業を行うとともに、伐採に伴う裸地面積の縮小及び分散を図る施業を推進する。  |
| 山地災害防止機能／土壌保全機能                    | 山地災害防止林     | 下層植生が生育するための空間が確保され、適度な光が射し込み、下層植生とともに樹木の根が深く広く発達し土壌を保持する能力に優れた森林であって、必要に応じて、山地災害を防ぐ施設等が整備されている森林。   | 災害に強い地域環境を形成するために地形、地質等の条件を考慮した上で、高齢級や天然力を活用した複層状態の森林への誘導、伐採に伴う裸地面積の縮小及び裸地化の回避を図ることとする。<br>また保安林の指定及びその適切な管理を推進し、併せて、溪岸の侵食や山地の崩壊を防止する必要がある場合には、谷止めや土留等の施設の設置を推進する。  |
| 快適環境形成機能                           | 生活環境保全林     | 樹高が高く枝葉が多く茂っているなど、遮蔽能力や汚染物質の吸着能力が高く諸被害に対する抵抗性が高い森林。  | 地域の快適な生活環境を保全する観点から、風、騒音等の防備や大気の浄化のために有効な森林の構成の維持を基本とし、生活環境の保全のための保安林の指定やその適切な管理、及び防風・防潮や景観の創出等生活環境の保全等に重要な役割を果たしている海岸林等の保全を推進する。   |
| 保健・レクリエーション機能<br>文化機能<br>生物多様性保全機能 | 保健・文化機能等維持林 | 原生的な森林生態系、希少な生物が生息・生育する森林、陸域・水域にまたがり特有の生物が生息・生育する森林、身近な自然や自然とのふれあいの場として適切に管理され、多様な樹種等からなり、住民等に憩いと学びの場を提供している森林、史跡・名勝等と一体となって潤いのある自然景観や歴史的風致を構成している森林であって、必要に応じて保健・文化・教育活動に適した施設が整備されている森林。 | 生物多様性の保全や保健、レクリエーション利用、文化活動を進める観点から、森林の構成を維持して樹種の多様性を増進することを基本とし、それぞれの森林が求められる機能やあり方に応じ、保護及び適切な利用の組み合わせに留意して適切な保育・間伐等や広葉樹の導入を図る施業を推進する。<br>保健・風致の保存等のための保安林の指定やその適切な管理を推進するとともに、住民等にとって憩いと学びの場として期待される森林にあつては、立地条件や道民のニーズ等に応じ広葉樹の導入を図るなどの多様な森林整備を推進する。また、潤いある自然景観や歴史的風致の創出を期待される森林にあつては、美的景観の維持・形成に配慮した森林整備を推進する。 |

## 公益的機能別施業森林以外の森林

| 重視すべき機能 | 森林の区域  | 望ましい森林の姿   | 森林の整備及び保全の基本方針  |
|---------|--------|--|---|
| 木材等生産機能 | 木材等生産林 | 林木の生育に適した土壌を有し、木材として利用する上で良好な樹木により構成され、成長量が高い森林であって、林道等の基盤施設が適切に整備されている森林。 | 木材等の林産物を持続的、安定的かつ効率的に供給する観点から、森林の健全性を確保し、木材需要に応じた樹種、径級の林木を生育させるための適切な造林、保育及び間伐等を推進する。また、施業の集団化や機械化を通じた効率的な整備についても併せて推進する。 |

(1) 山地災害防止機能をより高度に発揮させるため、急傾斜地や沢沿いの森林土壌が薄く表層崩壊が起こりやすい箇所については、根系の発達を促し、下層植生が発達した良好な森林を育成するため、適切な保育・間伐等の促進に努めることとします。

また、長伐期施業や複層林施業による多様な森林への誘導や皆伐に伴う裸地面積の縮小及び分散を図るよう努めることとします。

(2) 公益的機能が重視される森林で風害の受けやすい地域においては、風害に強い多様な樹種・樹冠層により形成される森林へ誘導するため、人工造林や天然更新（地表処理等）を適切に組み合わせ、樹種や林齢の異なる森林の構造を基本におき、植栽本数の低減や植栽時期の分散を図ることとします。

(3) 地域の人工林の保続を図りながら、資源の循環利用を進めるため、「北海道人工林資源管理方針」に基づき、人工林資源の適正な管理に取り組むこととします。

### 3 森林施業の合理化に関する基本方針

小規模な森林所有者形態や林業従事者の高齢化等の課題を克服し、低コストで効率的な森林整備を進めるとともに、安定的、効率的に木材を供給できる体制を整備するため、森林所有者、森林組合、国有林等の流域を単位とした関係者の合意形成を図りながら、委託を受けて行う森林の施業又は経営の実施、森林施業の共同化、林業従事者の養成及び確保、道産木材の流通・加工体制の整備等について、計画的かつ総合的に推進することとします。

なお、森林施業の合理化に関する事項の推進に当たっては、地域の関係者が連携し、森林施業や林業経営の合理化・効率化、地域のエネルギー資源としての森林バイオマス利用の可能性等を含めた木材需給の動向と見通しなど、効率的な森林整備や安定的な木材供給を図るうえでの課題や目標等を明確にしつつ取り組むこととします。

## II 森林整備の方法に関する事項

### 第1 森林の立木竹の伐採に関する事項（間伐に関する事項を除く。）

#### 1 立木の伐採（主伐）の標準的な方法

次のとおり、立木の伐採（主伐）の標準的な方法を示します。

ア 立木竹の伐採のうち主伐については、更新を伴う伐採であり、その方法については皆伐又

は択伐によることとします。

#### (ア) 皆伐

皆伐については、主伐のうち（イ）の択伐以外のものとします。

皆伐にあたっては、気候、地形、土壌等の自然的条件及び公益的機能の確保の必要性を踏まえ、適切な伐採区域の形状、一箇所当たりの伐採面積の規模及び伐採区域のモザイク的配置に配慮し、適確な更新を図ることとします。

また、一箇所当たりの伐採面積は、原則として20ヘクタールを超えないよう、伐採面積の縮小及び伐採箇所の分散並びに伐採時期の長期化に努めることとします。

伐採の時期については、地域の森林構成等を踏まえ、公益的機能の発揮との調和に配慮することとします。

#### (イ) 択伐

択伐は、主伐のうち伐採区域の森林を構成する立木の一部を伐採する方法であって、単木・帯状又は樹群を単位として伐採区域全体ではおおむね均等な割合で行うこととし、原則として材積にかかる伐採率が30%以下（伐採後の造林が植栽による場合にあっては40%以下）とするよう努めることとします。

なお、択伐に当たっては、適切な伐採率により一定の立木材積を維持することとし、森林の有する多面的機能の維持増進が図られるよう、適切な林分構造とすることとします。

また、天然更新を前提とする場合は、現地の自然条件や更新を期待する樹種の特長などを勘案し、母樹の保存、種子の結実や飛散状況、天然稚幼樹の生育状況等を勘案することとします。

イ 主伐に当たっては、森林の有する公益的機能の発揮と森林生産力の維持増進に留意して行うこととし、伐採跡地が連続することがないように、伐採跡地間には少なくとも周辺森林の成木の樹高程度の幅を確保することとします。また、伐採の対象とする立木については、標準伐期齢以上を目安として選定することとします。

ウ 伐採後の適確な更新をするため、あらかじめ適切な更新の方法を定め、その方法を勘案して伐採を行うこととします。

特に伐採後の更新を天然更新とする場合には、天然稚樹の生育状況、母樹の保存、種子の結実、飛散状況等を勘案して行うこととします。

なお、劣悪な自然条件により更新を確保するため伐採の方法を特定する必要がある森林では、択伐等適確な更新に配慮した伐採方法とします。

エ 複層林施業の主伐を行う場合は、上層木の樹冠層を保全させることに特に留意し、自然条件を踏まえ、森林を構成している樹種、林分構造等を勘案して行うこととし、下層木の発芽や育成に配慮するために十分な光が当たるよう、適切な伐採率及び繰り返し期間により行うこととします。

## 2 樹種別の立木の標準伐期齢

本町における立木の標準伐期齢は、標準的な立地条件にある森林における平均成長量が最





伐採作業の途中であっても大雨が予想される場合等は、必要に応じて集材路等に排水路を作設するなど、侵食防止に努めることとします。

なお、水道取水施設の上流で造材を行う場合等で、降雨等により河川の汚濁が懸念される場合は、伐採・搬出を冬季間に行うなど時期や方法に配慮することとします。

また、特に河川周辺で造材を実施する場合は、増水時に枝条や残材等が流出して流木被害の一要因とならないよう、十分に留意することとします。

(オ) 高性能林業機械を積極的に導入し、効率的な作業を目指すとともに、労働安全に努めるととします。

(カ) 特色ある森林景観や野生生物の生息・生育環境の保存に配慮した伐採を行うこととします。

## 第2 造林に関する事項

### 1 人工造林に関する事項

I 伐採、造林、保育その他森林の整備に関する基本的な事項、2森林整備の基本方針を踏まえ、適切な森林の施業方法により、人工造林を実施することとします。

また、効率的な森林整備を行うため、将来の保育コストを抑える観点から、高性能林業機械の導入を見据えた施業プランの下で人工造林を検討することとします。

#### ア 人工造林の対象樹種

人工造林の対象樹種については、次のとおりとします。

(ア) 人工造林の対象樹種は、気候、地形、土壌等の自然条件への適応、それぞれの樹種の特徴、既往の成林状況など適地適木を基本として、地域における造林種苗の需給動向及び木材利用状況等を勘案し、選定することとします。

(イ) 多様な森林の整備を図る観点から、広葉樹や郷土樹種を含め、幅広く樹種を検討することとします。特に河畔沿いについては、河川の水質浄化や落葉等による有機物の供給などが期待できることから、積極的に広葉樹を選定することとします。

なお、山腹崩壊の危険性が高い急傾斜地や沢沿いについては、カツラやミズナラ等の深根性で根系の支持力が大きい樹種の植栽に考慮することとします。

(ウ) 育成複層林へ誘導する林分については、樹種の耐陰性や既往の成林状況、自然条件等を勘案し、造林樹種を選定することとします。

以上を踏まえ、本町における人工造林の対象樹種を次のとおりとします。

| 区 分       | 樹 種 名  |
|-----------|--|
| 人工造林の対象樹種 | カラマツ、トドマツ、エゾマツ、アカエゾマツ、グイマツ（F1を含む）、ヤチダモ、カツラ、カンバ類、ドロノキ、ハンノキ、ミズナラ、その他郷土樹種 |

なお、その他郷土樹種及び定められた樹種以外の樹種を植栽しようとする場合は、林業普及指導員等と相談の上、適切な樹種を選択することに努めるものとします。

イ 人工造林の標準的な方法

人工造林の標準的な方法については、次のとおりとします。

(ア) 育成単層林を導入又は維持する森林

- a 寒風害等の気象害及び病虫害等に考慮し、保護木・保護樹帯の配置、同一樹種の大面積造林の回避など、多様な森林の整備に配慮して行うこととし、適確な更新により裸地状態を早急に解消するため、気候、土壌等の自然条件に適合した樹種を早期に植栽することとします。特に、水源涵養林、山地災害防止林にあつては、林地の安定化を目的とした無立木地への植栽を積極的に行うこととします。
- b 地拵えは、それぞれの地域の地形、土壌、植生、気象条件及び過去の野鼠被害の状況等を考慮したうえで、全刈り又は筋刈りにより行うこととします。
- c 植栽時期は春又は秋植えとしますが、乾燥時期を避け、必要に応じて植え穴を大きくして植え付けるなど、その後の苗木の活着と成長が十分図られるように行うこととします。
- d 植栽本数は、次表の主要樹種の植栽本数を基礎として、既往の植栽本数及び個々の樹種特性を勘案して仕立ての方法別に定めることとし、多様な森林の整備を図る観点から、様々な施業体系や生産目標を想定した植栽本数について検討することとします。

植栽本数の検討に当たっては、周囲の人工林の生育状況、気象災害の発生状況等を勘案し、森林の有する多面的機能の高度発揮や植栽コストの低減を図ることを目的に本数の低減についても併せて検討することとします。特に初期成長が早く、通直性や耐鼠性が向上したグイマツ雑種F1等を植栽する場合は、植栽本数の低減に努めることとします。植栽本数の低減に当たっては、将来の保育コストを抑える観点から、高性能林業機械の導入を見据えた植栽設計を検討することとします。

また、周囲に樹冠が十分発達した母樹があり、天然更新も期待できる林分にあつては、天然更新木の積極的な活用による植栽本数の低減を検討することとします。

【植栽本数】

単位 本/ha

| 仕立ての方法 | 樹 種   |       |       |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|
|        | カラマツ  | トドマツ  | その他針  | 広葉樹   |
| 密仕立て   | 2,500 | 2,500 | 2,500 | 2,500 |
| 中庸仕立て  | 2,000 | 2,000 | 2,000 | 2,000 |
| 疎仕立て   | 1,500 | 1,500 | 1,500 | 1,500 |

なお、定められた標準的な植栽本数の範囲を超えて植栽しようとする場合は、林業普及指導員等と相談の上、適切な植栽本数を判断して行うことに努めるものとします。

【植栽時期】

| 植栽時期 | 樹 種         | 植 栽 時 期    |
|------|-------------|------------|
| 春 植  | トドマツ、アカエゾマツ | 4月初旬～ 6月上旬 |
|      | カラマツ、その他    | 4月初旬～ 5月下旬 |
| 秋 植  | トドマツ、アカエゾマツ | 9月上旬～11月下旬 |
|      | カラマツ、その他    | 9月下旬～11月下旬 |

e 効果的な施業実施の観点から、技術的合理性に基づきコンテナ苗の活用や伐採と造林の一貫作業システムの導入について努めることとします。

(イ) 育成複層林を導入又は維持する森林

下層木の成長に必要な照度を常に確保することとします。植栽により更新を確保する場合は、上層木の枝下部への植栽を避けることとし、植栽本数については、標準的な植栽本数に上層木の材積伐採率を乗じた本数以上を基本とすることとします。

ウ 伐採跡地の人工造林をすべき期間

皆伐による伐採跡地については、林地の荒廃を防止し、裸地状態を早急に解消するため、当該伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して2年以内に人工造林を実施し、更新を図ることとします。

択伐による部分的な伐採跡地については、伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して5年以内に人工造林を実施し、更新を図ることとします。

なお、天然更新による場合は2のウによることとします。

## 2 天然更新に関する事項

天然更新は、気候、地形、土壌等の自然的条件、林業技術体系等からみて、主として天然力を活用することにより適確な更新が見込まれる森林において行うこととします。

ア 天然更新の対象樹種

天然更新の対象樹種は、ぼう芽更新ではイタヤカエデ、ハルニシ、ミズナラなどとし、天然下種更新ではカンバ類やドロノキ・ハンノキなどとし、

以上を踏まえ、本町における天然更新の対象樹種を次のとおりとします。

| 区 分       | 樹 種 名              |
|-----------|--------------------|
| 天然更新の対象樹種 | カンバ類、ハンノキ、ヤナギ類、ナラ類 |

なお、定められた樹種以外の樹種を植栽しようとする場合は、林業普及指導員等と相談の上、適切な樹種を選択することに努めるものとします。

イ 天然更新の標準的な方法

天然更新の標準的な方法については、次のとおりとします。

(ア) 天然更新の完了の判断基準

第2の2ウに定める天然更新をすべき期間内に、天然に発生した稚幼樹の生立が確実に見込める樹高成長があり、かつ、周辺の植生の草丈に一定程度の余裕高を加えた樹高となった高木天然木(注1)の稚幼樹等(注2)が幼齡林(注3)にあっては成立本数が立木度(注4)3以上、幼齡林以外の森林にあっては林地面積(注5)に対する疎密度が30%以上となった状態をもって更新完了とします。

また、ぼう芽更新の場合は、ぼう芽性の強い樹種(イタヤカエデ、ハルニシ、ミズナラ等)を対象とし、切株から発生したぼう芽幹の生育が確実に見込める伸長があり、かつ、周辺の植生の草丈に一定程度の余裕高を加えた樹高となった状態で、幼齡林にあっ

ては成立本数が立木度3以上、幼齢林以外の森林にあっては林地面積に対する疎密度が30%以上となった状態をもって更新完了とします。ただし、林地内で更新の状況が異なる場合は、区画を分割し、それぞれの区画に対して判断を行うこととします。

なお、天然更新の完了を確認する方法の詳細については、「天然更新完了基準書の制定について」（平成24年5月15日付け森林第111号森林計画課長通知）によることとします。

（注1）「高木天然木」とは、将来において樹冠上層部を形成する樹種で、かつ、樹高が10m以上になる樹種です。

（注2）「稚幼樹等」とは、稚幼樹のほか、保残木及びぼう芽を含みます。

（注3）「幼齢林」とは、伐採後おおむね15年生未満の森林をいいます。

（注4）「立木度」とは、幼齢林において、現在の林分の本数と当該林分の林齢に相当する期待成立本数（天然更新すべき本数の基準）との対比を十分率であらわしたもので、立木度3は期待成立本数の3割が更新した状態をいいます。なお、伐採後5年を経過した林分における天然更新の対象樹種の期待成立本数は、別途定める「天然更新の完了の判断基準について」によるものとします。

立木度＝現在の林分の本数／当該林分の林齢に相当する期待成立本数

（注5）「林地面積」とは、更新完了の判断を行う区画の面積です。

#### （イ）天然更新補助作業の標準的な方法

天然下種により更新を確保する場合、ササや粗腐植の堆積等により更新が阻害されている箇所については、かき起こしや枝条整理等を行うこととし、ササなどの下層植生により天然稚幼樹の生育が阻害されている箇所については、刈出しを行うこととします。

また、ぼう芽により更新を確保する場合は、樹液の流動期（6～8月）を避けて伐採することとし、ぼう芽の発生状況等を考慮の上、必要に応じ芽かき又は植込みを行うこととします。

いずれの箇所も定期的に更新の状況等を確認し、必要に応じ補植等を行い更新を確保することとします。

なお、かき起こしの実施に当たっては、林地の保全に十分留意することとし、更新が不十分な箇所については、補植等を行って更新を確保することとします。

#### ウ 伐採跡地の天然更新をすべき期間

伐採跡地における林地の荒廃を防止する観点から、皆伐、択伐に関わらず原則として伐採が終了した日を含む年度の翌年度から起算して5年以内に更新を完了させることとします。

期間内に更新が完了しなかった場合は、速やかに更新を図る観点から、伐採が終了した日を含む年度の翌年度から起算して7年を経過する日までに天然更新補助作業又は植栽により更新を行うこととします。

### 3 植栽によらなければ適確な更新が困難な森林の所在

主伐後の適確な更新を図るため、天然更新が期待できない森林等を「植栽によらなければ適確な更新が困難な森林」として定めます。

特に、カラマツやトドマツなどの人工林資源の保続を図るとともに、余市町では、第4の2において木材等生産機能の維持増進を図る森林の区域に位置づけられている森林のうちの人工林において確実かつ早期に更新を図るため、当該ゾーンの全森林について指定します。指定する森林の区域は次のとおりです。

| 森林の区域（林小班）   |                                |
|--|--------------------------------|
| <p>1林班<br/>5～6小班、9～11小班、15～17小班、21～28小班、30小班、32小班、36小班、38小班、42～43小班、45～46小班、49～51小班、54～55小班、57～64小班、66～73小班、78～79小班、81～83小班、85小班、88～89小班、91小班、94～97小班、101～103小班、106小班、108～109小班、112～121小班、126～127小班、132～133小班、135～139小班、143～144小班、146小班</p> <p>2林班<br/>1～4小班、8小班、13小班、25小班、29～31小班、35小班、38～40小班、42小班、52～53小班、57～59小班、61～66小班、70小班、75小班、77～78小班、83小班、88小班、91小班、93小班、101～102小班、104小班、106～110小班、112小班、117小班、120小班、125～128小班、132～134小班、136小班、138～139小班、149小班、151～156小班、161小班、163～164小班、166小班、173～175小班、178～181小班、184～191小班</p> <p>3林班<br/>6～7小班、11小班、13小班、19小班、21～23小班、25～26小班、32小班、41～43小班、47小班、53小班、55小班</p> <p>4林班<br/>4小班、14小班、17小班、20～22小班、32～34小班、36小班、38小班、41小班、45小班、47小班、50～69小班、75小班、77～78小班、83～85小班、88～89小班、91小班、98小班、100～102小班、105～108小班</p> <p>5林班<br/>6～12小班、14～15小班、17小班、23小班、25小班、28～36小班、39～41小班、43～46小班、48～52小班、54小班、56小班、58小班、60小班、65小班、68小班、70小班、72～75小班、77小班、78～80小班、84～86小班、89小班、91小班、98～100小班、102～107小班、110小班、114～116小班、119～121小班、128小班、132小班、151小班、154～156小班、158小班、161～162小班、164～167小班、169～171小班、175～178小班、186小班、190小班、192～194小班、198小班、201～202小班、205～206小班、211小班、213～214小班、217～218小班</p> <p>6林班<br/>1～4小班、7小班、9小班、15小班、19～21小班、24～26小班、28小班、31～32小班、36小班、39～40小班、43～47小班、50～55小班、60小班、68小班、72～73小班、75～76小班、78～81小班、85～86小班、91～92小班、95～97小班、101小班、105～110小班、112～115小班、117～118小班、121小班、123～124小班、126～127小班、129～134小班</p> <p>9林班<br/>15小班、17～18小班、20小班、23小班</p> <p>15林班<br/>2小班、6～7小班、10～11小班、14小班、17小班、19小班、21～22小班、24～26小班、28～32小班、36小班、39～42小班、44～46小班、48～51小班、53小班、55～56小班、61～62小班、64～66小班、68～71小班、73～74小班</p> | <p>木材等生産<br/>森林の<br/>うち人工林</p> |

|   |                                |
|---|--------------------------------|
| <p>16林班<br/>1小班、3~8小班、10~13小班、15~21小班、26小班、28~29小班、<br/>31~32小班、34~36小班、39~42小班、44小班、47~51小班、<br/>54小班、58~62小班、71~72小班、75~78小班、80~81小班、<br/>83~87小班、90~98小班、100~102小班、103~107小班、<br/>110~112小班、115小班</p> <p>17林班<br/>7小班</p> <p>18林班<br/>1小班、3小班、6小班、9~11小班、15小班、19~21小班、<br/>24~26小班、28小班、30小班、33小班、37~39小班、41~42小班、<br/>45小班、47~49小班、51小班、85小班</p> <p>19林班<br/>1~8小班、10~15小班、38~40小班、42~43小班、45~46小班、<br/>49~51小班、56小班</p> <p>21林班<br/>1~4小班、7~9小班、11小班、16~18小班、20小班、24~27小班、<br/>29~30小班、35小班、37小班、39小班、41~42小班、44~45小班、<br/>47~49小班、52~57小班、59~60小班、62小班、64~67小班、<br/>73~74小班、77小班、79小班、81~82小班、87~90小班</p> <p>24林班<br/>10~15小班、19~21小班</p> <p>25林班<br/>7小班、12小班、20小班、23~24小班、29~30小班、32~34小班、<br/>36~38小班、45~48小班、50小班、53小班、55小班、57小班、<br/>64小班、67~68小班、70小班</p> <p>26林班<br/>6~8小班、10小班、13小班、22~24小班、26~31小班、33小班、<br/>35~38小班、45小班、49小班、55~56小班、62小班、70小班、<br/>72小班、75小班、80小班、82小班、89~91小班、95~96小班、<br/>98~99小班</p> <p>30林班<br/>4~5小班、8~19小班</p> <p>31林班<br/>10小班、13小班、17小班、19小班、24小班、28~29小班、31小班、<br/>45小班</p> <p>32林班<br/>3~4小班、6~9小班、12小班、14~15小班、18小班、27~28小班</p> <p>33林班<br/>3~4小班、6~7小班、11小班、16小班、18小班、21~22小班、<br/>27小班、29小班、31小班、33小班、36小班、39小班、42小班、<br/>45小班、49小班、56~57小班</p> <p>34林班<br/>1小班、3~9小班、11小班、15小班、17小班、26小班、34~36小班、<br/>40小班、43小班、49~52小班、54~56小班、73小班、75~79小班、<br/>81小班、83~84小班、86小班、95小班、98小班、100小班、<br/>108小班、110小班、112小班、120小班、123小班、125~129小班</p> <p>35林班<br/>3~4小班、6~7小班、10~12小班、14~16小班、<br/>19~26小班、29~30小班、32小班、34~37小班、39~41小班、<br/>43~44小班、46~48小班、50~54小班、59小班、63~64小班、</p> | <p>木材等生産<br/>森林のうち<br/>人工林</p> |
|---|--------------------------------|

|   |  |
|---|--|
| <p>66 小班、76～77 小班</p> <p>36 林班<br/>4 小班、6 小班、9 小班、11 小班、14～15 小班、20～21 小班、<br/>25～27 小班、31 小班、35～37 小班、41 小班、43～44 小班、<br/>47～54 小班、56 小班、58 小班、61 小班、66～67 小班、74～75 小班</p> <p>37 林班<br/>1～8 小班、11～13 小班、19 小班、22 小班、27 小班、32 小班、<br/>34～36 小班、38 小班、42 小班、46～47 小班、49～66 小班、69 小班、<br/>72～74 小班、76～77 小班、82～83 小班、94 小班、99～101 小班、<br/>103～104 小班、106 小班、116～117 小班、128～132 小班、<br/>138 小班</p> <p>38 林班<br/>3 小班、5～7 小班、9～11 小班、14～15 小班、20～21 小班、24 小班、<br/>30～31 小班、36～38 小班、40～41 小班、43～44 小班、49 小班</p> <p>39 林班<br/>6 小班、8 小班、11～13 小班、15～16 小班、21 小班、26～27 小班、<br/>29 小班、31 小班、33～34 小班、36～37 小班、39 小班、42 小班、<br/>45 小班、47 小班、49 小班、50～52 小班、57 小班、62 小班、67 小班、<br/>69 小班、70～71 小班、85～88 小班、101～102 小班、112～113 小班、<br/>116～124 小班、127～129 小班、135～136 小班、145 小班、<br/>155～156 小班、164 小班</p> |  |
|---|--|

なお、上記の森林において、主伐を行う場合は、「伐採跡地の人工造林をすべき期間」の期間内に人工造林を行う必要があります（注）。

（注）植栽の具体的な方法については、森林経営計画の実施基準として、農林水産省令による基準が適用されます。

#### 4 森林法第10条の9第4項の伐採の中止又は造林の命令の基準

##### （1）更新に係る対象樹種

###### ア 人工造林の場合

1のアによる

###### イ 天然更新の場合

2のアによる

##### （2）生育し得る最大の立木の本数として想定される本数

2のイにおいて記載している「5年生の天然更新の対象樹種の期待成立本数」による

#### 5 その他必要な事項

ア 土砂の流出が懸念される急傾斜地等で地拵えを行う場合は、全刈りを避け、刈払いの方向や枝条等の置き場に十分に留意することとします。

イ 伐採跡地等が放置されないようにするため、森林組合等と連携して森林経営に意欲的な者に伐採跡地等の取得を促すなど林地流動化の取組を通じて、伐採跡地等への植林を推進します。



### 第3 間伐を実施すべき標準的な林齢、間伐及び保育の標準的な方法その他間伐及び保育の基準

#### 1 間伐を実施すべき標準的な林齢及び間伐の標準的な方法

次のとおり、間伐を実施すべき標準的な林齢及び間伐の標準的な方法に関する指針を示します。

ア 間伐は、林冠がうっ閉し、林木間の競争が生じ始めた森林において、主に目的樹種の一部を伐採して行う伐採の方法であって、伐採後一定の期間内に林冠がうっ閉するよう行うこととします。

イ 間伐に当たっては、森林資源の質的向上を図るとともに、適度な下層植生を有する適正な林分構造が維持されるよう、適切な伐採率により繰り返し行うこととします。特に、高齢級の森林における間伐に当たっては、立木の成長力に留意することとします。

なお、主要樹種ごとの標準的な間伐の時期等については、次表のとおりとします。

| 樹種<br>(生産目標)                       | 施業方法  | 間伐の時期(林齢) |    |    |    |    | 間伐の方法   |
|------------------------------------|---|-----------|----|----|----|----|---|
|                                    |   | 初回        | 2回 | 3回 | 4回 | 5回 |   |
| カラマツ<br>〔グイマツとの<br>交配種含む〕<br>(一般材) | 植栽本数：2,000本/ha<br>仕立て方法：中庸仕立て<br>主伐時の設定：400本/ha | 19        | 26 | 34 | 42 | —  | 選木方法：定性及び定量<br>間伐率：20～33%<br>間伐間隔年数<br>標準伐期齢未満：7年<br>標準伐期齢以上：8年 |
| トドマツ<br>(一般材)                      | 植栽本数：2,000本/ha<br>仕立て方法：中庸仕立て<br>主伐時の設定：450本/ha | 21        | 28 | 36 | 45 | —  | 選木方法：定性及び定量<br>間伐率：20～33%<br>間伐間隔年数<br>標準伐期齢未満：8年               |

注1)「カラマツ間伐施業指針(北海道林務部監修)」及び「トドマツ人工林間伐の手引き(北海道林務部監修)」などを参考とした。

注2) 植栽本数、主伐時の生産目標及び仕立て方法、主伐後の施業方針等により、間伐時期が異なることに留意すること。

#### 2 保育の作業種別の標準的な方法

次のとおり、保育の標準的な方法に関する指針を示します。

##### ア 下刈り

局地的気象条件、植生の繁茂状況等に応じて適切な時期及び作業方法により行うこととし、その終期は、造林樹種の生育状況、植生の種類及び植生高により判断することとします。

##### イ 除伐

侵入木や通常の成長が見込めない若しくは形質の悪い造林樹種など、育成の対象となる林木と競合し成長を妨げるものを適時適切に除去することとします。造林樹種以外であっても、その生育状況、公益的機能の発揮及び将来の利用価値等を勘案し、有用なものは保存し育成の対象とすることとします。

##### ウ つる切り

育成の対象となる林木の成長を促すため、樹幹に巻き付いたつる類を切って取り除くこととします。除伐と合わせて行うことを基本とし、つる類の繁茂の状況に応じて実施します。

なお、主要樹種ごとの標準的な保育の時期等については、次表のとおりとします。

|      | 年<br>植栽 | 1    | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|------|---------|------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
|      |         | カラマツ | 春 | ① | ② | ② | ① | ① |   |   |    |
|      | 秋       |      | ② | ② | ② | ① | ① |   |   |   |    |
| トドマツ | 春       | ①    | ② | ② | ② | ① | ① | ① | ① | ① |    |
|      | 秋       |      | ② | ② | ② | ② | ① | ① | ① | ① | ①  |

|      | 年<br>植栽 | 11   | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
|------|---------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
|      |         | カラマツ | 春  |    |    | △  |    |    |    |    |    |
|      | 秋       |      |    |    | △  |    |    |    |    |    |    |
| トドマツ | 春       |      |    |    | △  |    |    |    |    |    |    |
|      | 秋       |      |    |    |    | △  |    |    |    |    |    |

注) カラマツには、グイマツ等を含み、トドマツには、エゾマツ、アカエゾマツを含む。  
①：下刈り1回 ②：下刈り2回 △：つる切り、除伐

### 3 その他間伐及び保育の基準 該当なし

### 4 その他必要な事項

#### (1) 要間伐森林及び計画期間内において間伐を実施する必要があると認められる森林に関する事項

森林法第10条の10第2項に基づき、間伐又は保育が適正に実施されていない森林であってこれらを早急を実施する必要のあるもの（以下、「要間伐森林」という。）について、要間伐森林である旨並びに当該要間伐森林について実施すべき間伐又は保育の方法及び時期を森林所有者に対して通知します。

また、1及び3に定める間伐の基準に照らし、計画期間内において間伐を実施する必要があると認められる森林は次のとおりとします。

- ①森林経営計画（森林施業計画）の作成されていない森林
- ②トドマツ、カラマツ、スギの人工林
- ③小班面積0.5ha以上
- ④複層林施業森林以外
- ⑤粗密度8以上
- ⑥初回間伐を行う標準的な林齢以上の森林で、
  - ア 標準伐期齢未満：  
標準的な間伐間隔年数以上の過去期間に間伐履歴のない森林

イ 標準伐期齡林齡以上：  
過去 15 年以内に間伐履歴のない森林

⑦以上のほか、町長が森林の現況等から間伐が必要と認める森林

【計画期間内において間伐を実施する必要があると認められる森林の所在】

| 樹種   | 齡級   | 森林の所在    |                 |                      |
|------|------|----------|-----------------|----------------------|
|      |      | 林班       | 小 班             |                      |
| カラマツ | 4    | 40       | 32              |                      |
|      | 7    | 2        | 175             |                      |
|      |      | 6        | 54              |                      |
|      |      | 7        | 38              |                      |
|      |      | 34       | 6               |                      |
|      | 8    | 2        | 161             |                      |
|      |      | 16       | 90              |                      |
|      |      | 18       | 9               |                      |
|      |      | 20       | 60              |                      |
|      |      | 24       | 13              |                      |
|      |      | 26       | 72              |                      |
|      | 9    | 1        | 71、97           |                      |
|      |      | 2        | 83              |                      |
|      |      | 6        | 7               |                      |
|      |      | 7        | 42              |                      |
|      |      | 14       | 28、29           |                      |
|      |      | 15       | 62              |                      |
|      |      | 20       | 75              |                      |
|      |      | 21       | 39、59           |                      |
|      |      | 24       | 20              |                      |
|      |      | 36       | 43              |                      |
|      | 10   | 1        | 58              |                      |
|      |      | 2        | 3、70、93、110     |                      |
|      |      | 6        | 75、91           |                      |
|      |      | 10       | 16              |                      |
|      |      | 11       | 34、37、38、41、44  |                      |
|      |      | 14       | 5、8             |                      |
|      |      | 16       | 34              |                      |
|      |      | 19       | 1               |                      |
|      |      | 21       | 3、41            |                      |
|      |      | 25       | 33、36、37、38、50、 |                      |
|      |      | 26       | 7、22、24、49      |                      |
|      |      | 32       | 15              |                      |
|      |      | 33       | 7、11、16、18      |                      |
|      |      | 36       | 56              |                      |
|      |      | 37       | 65              |                      |
|      | 39   | 37、51、52 |                 |                      |
|      | 41   | 18       |                 |                      |
|      | トドマツ | 7        | 2               | 61、174               |
|      |      |          | 5               | 15、31、32、175、177、192 |
|      |      |          | 8               | 29                   |
| 40   |      |          | 34、38           |                      |
| 8    |      | 3        | 7               |                      |
| 9    |      | 14       | 62              |                      |
| 10   |      | 14       | 11、13、22        |                      |
|      |      | 20       | 51              |                      |
| 12   | 13   | 2、54     |                 |                      |

(2) その他間伐及び保育に関する留意事項

木材等生産林に関しては、森林の健全性を確保し利用価値の向上を図るため、適切な間伐及び保育を実施することとします。

特に、枝打ちについては、生産目標及び立木の生育状況に応じて適切な時期及び枝打ち高により積極的に行うこととします。

また、保育コストの低減を図るため、緩傾斜地など機械での作業に適した条件にある森林については、高性能林業機械の導入や列状間伐を検討することとします。

#### 第4 公益的機能別施業森林の整備等の森林の整備に関する事項

##### 1 公益的機能別施業森林の区域及び当該区域における森林施業の方法

公益的機能別施業森林は、森林の有する公益的機能の維持増進を特に図るための施業を積極的かつ計画的に推進すべき森林で、その区域及び当該区域内における森林施業の方法は次のとおりです。

(1) 水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林（水源涵養林）

ア 区域の設定

水源かん養保安林及び干害防備保安林、ダム集水区域や主要な河川の上流に位置する水源地周辺の森林、地域の用水源として重要なため池、湧水地、溪流等の周辺に存する森林、水源涵養機能の評価区分が高い森林など水源の涵養の機能の維持増進を図る森林を別表1のとおり定めます。

イ 森林施業の方法

下層植生や樹木の根を発達させる施業を基本とし、伐期の延長、伐採に伴って発生する裸地の縮小及び分散を図ることとし、当該森林施業を推進すべき森林を別表2のとおり定めます。

(2) 土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

ア 区域の設定

①土地に関する災害の防止及び土壌の保全機能の維持増進を図る森林（山地災害防止林）

土砂崩壊防備保安林、土砂流出防備保安林、なだれ防止保安林、落石防止保安林や、砂防指定地周辺、山地災害危険地区、その他山地災害の発生により、人命・人家等施設への被害のおそれがある森林、その他山地災害防止／土壌保全機能の評価区分が高い森林など、山地災害防止機能及び土壌保全機能の維持増進を図る森林を別表1のとおり定めます。

②快適な環境の形成の機能の維持増進を図る森林（生活環境保全林）

飛砂防備保安林、潮害防備保安林、防風保安林、防雪保安林、防霧保安林、防火保安林や騒音・粉塵等の影響を緩和する森林、その他快適環境形成機能の評価区分が高い森林など、快適な環境の形成機能の維持増進を図る森林を別表1のとおり定めます。

③保健・レクリエーション機能、文化機能及び生物多様性保全機能の維持増進を図る森林  
(保健・文化機能等維持林)

保健保安林、風致保安林、都市緑地法に規定する緑地保全地域及び特別緑地保全地区、都市計画法に規定する風致地区、文化財保護法に規定する史跡名勝天然記念物に係る森林、キャンプ場、森林公園等の施設を伴う森林、史跡等と一体となり、すぐれた自然景観等を形成する森林、その他保健文化機能の評価区分が高い森林など、保健・レクリエーション機能、文化機能及び生物多様性保全機能の維持増進を図る森林を別表1のとおり定めます。

イ 森林施業の方法

地形・地質等の条件を考慮した上で伐採に伴って発生する裸地の縮小並びに回避を図るとともに、天然力も活用した施業、風や騒音等の防備や大気の浄化のために有効な森林の構成の維持を図るための施業、憩いと学びの場を提供する観点からの広葉樹の導入を図る施業、美的景観の維持・形成に配慮した施業の推進を図ることとし、具体的には、公益的機能の維持増進を特に図るための森林施業を推進すべき森林については、択伐による複層林施業を推進すべき森林として定め、それ以外の森林については、択伐以外の方法による複層林施業を推進すべき森林として定めます。

また、適切な伐区の形状・配置等により、伐採後の林分においてこれらの機能の確保ができる森林は、長伐期施業を推進すべき森林として定めるものとし、主伐の時期を標準伐期齢の概ね2倍以上とし、伐採に伴って発生する裸地の縮小及び分散を図ります。

なお、保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林のうち、特に、地域独自の景観等が求められる森林においては、風致の優れた森林の維持又は造成のために特定の樹種の広葉樹を育成する森林施業を行う森林として定めます。

それぞれの森林の区域については別表2のとおり定めます。

2 木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域及び当該区域における森林施業の方法

(1) 区域の設定

林木の生育に適した森林、林道等の開設状況等から効率的な施業が可能な森林、木材等生産機能の評価区分が高い森林で、自然的条件等から一体として森林施業を行うことが適当と認められる森林など、木材の生産機能の維持増進を図る森林を別表1のとおり定めます。

(2) 森林施業の方法

木材等資源の効率的な循環・利用を考慮して、伐採時期の多様化・長伐期化を図るなど、生産目標に応じた林齢で伐採するものとし、人工林の主要な樹種の主伐時期については、次表を目安とします。

また、適切な造林、保育及び間伐等を推進することを基本とし、森林施業の集約化、路網整備や機械化等を通じた効率的な森林整備を推進します。

| 樹種                    | 生産目標       | 仕立て方法 | 主伐時期 |
|-----------------------|------------|-------|------|
| カラマツ<br>(グイマツとの交配種含む) | 一般材生産・34cm | 中庸仕立て | 50年  |
| トドマツ                  | 一般材生産・36cm | 中庸仕立て | 55年  |

## 第5 作業路網その他森林の整備のために必要な施設の整備に関する事項

### 1 路網の整備に関する事項

(1) 効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び作業システム等並びに作業路網等整備とあわせて効率的な森林施業を推進する区域に関する事項

#### ア 路網密度の水準及び作業システム

効率的な森林施業を推進するための林地の傾斜区分や搬出方法に応じた路網密度の水準について、次のとおり定めます。

単位 路網密度：m/ha

| 区分              | 作業システム    | 路網密度   |       |
|-----------------|-----------|--------|-------|
|                 |           |        | 基幹路網  |
| 緩傾斜地 (0° ~15°)  | 車両系作業システム | 100 以上 | 35 以上 |
| 中傾斜地 (15° ~30°) | 車両系作業システム | 75 以上  | 25 以上 |
| 急傾斜地 (30° ~)    | 架線系作業システム | 15 以上  | 15 以上 |

注) 1 「車両系作業システム」とは、車両系の林業機械により林内の路網を移動しながら木材を集積、運搬するシステム。グラップル、ウィンチ、フォワーダ等を活用。

2 「架線系作業システム」とは、林内に架設したワイヤーロープに取り付けた搬器等を移動させて木材を吊り上げて集積するシステム。タワーヤード等を活用。

なお、本表は、木材搬出予定箇所路網を整備する際を目安として適用するものであり、施業を行わない箇所、伐採・搬出を伴わない施業（造林、保育）を行う箇所に適用するものではありません。

作業システムについては、間伐等の素材生産の低コスト化、高効率化を図るためには、高性能林業機械の性能を最大限に発揮させることを主眼とした労働生産性の向上が不可欠となります。このためには、機械の性能に応じ一定規模以上の事業量の安定的な確保や、機械作業に適合した高密度の路網、工程全体を通じて生産性が高まるような人員や機械の配置など、地域においてそれらを総合的に組み合わせた低コスト作業システムを構築していく必要があります。とくに作業全体の効率性を左右する木寄せ・集材工程の効率化を図ることが重要であることから、次の表を目安として主にグラップル、ウィンチ、フォワーダ等の車両系林業機械に適合させる形で、輸送距離や輸送量を勘案し、路網をそれぞれの役割に応じて組み合わせ、傾斜等に応じた密度により適切に配置することとします。

| 傾斜区分               | 伐倒          | 集材《木寄せ》    | 造材          | 巻立て           |
|--------------------|-------------|------------|-------------|---------------|
| 緩傾斜地<br>(0° ~15°)  | フェラーハンチャー   | トラクタ【全木集材】 | ハーベスタ・プロセッサ | グラップルローダ      |
|                    |             | 《グラップルローダ》 |             | (ハーベスタ・プロセッサ) |
|                    | フェラーハンチャー   | スキッド【全木】   | ハーベスタ・プロセッサ | グラップルローダ      |
|                    |             |            |             | (ハーベスタ・プロセッサ) |
| ハーベスタ              | トラクタ【全幹集材】  | ハーベスタ      | グラップルローダ    |               |
|                    | 《グラップルローダ》  |            | (ハーベスタ)     |               |
| ハーベスタ              | フォワーダ【短幹集材】 | (ハーベスタ)    | (フォワーダ)     |               |
| 中傾斜地<br>(15° ~30°) | チェーンソー      | トラクタ【全木集材】 | ハーベスタ・プロセッサ | グラップルローダ      |
|                    |             | 《グラップルローダ》 |             | (ハーベスタ・プロセッサ) |
| 急傾斜地<br>(30°)      | チェーンソー      | スイングヤード    | チェーンソー      | グラップルローダ      |
|                    |             | 【全幹集材】     | ハーベスタ・プロセッサ | (ハーベスタ・プロセッサ) |

※ ( ) は、前工程に引き続き同一機種により実施する工程について記載。

※ 【 】 は、集材方法

※集材《木寄せ》工程において、グラップルローダ（全幹）を集材に活用している事例がある。

#### イ 路網整備等推進区域の設定

該当なし

### (2) 作業路網の整備及び維持運営に関する事項

#### ア 基幹路網に関する事項

##### ①基幹路網の作設にかかる留意点

安全の確保、土壌の保全等を図るため、適切な規格・構造の林道の整備を図る観点等から、林道規程（昭和48年4月1日付け48林野道第107号林野庁長官通知）、林業専用道作設指針（平成22年9月4日付け22林整備第602号林野庁長官通知）を基本として、道が定める林業専用道作設指針（平成23年3月31日付け森計第1280号北海道水産林務部長通知）に則り開設します。

##### ②基本路網の整備計画

林道を含む基幹路網の開設・拡張計画は次のとおりです。

なお、基幹路網の開設にあたっては、自然条件や社会的条件が良好であり、将来にわたり育成単層林として維持する森林を主体に整備を加速化させるなど、森林施業の優先順位に応じた整備を推進することとします。

単位 延長：km 面積：ha

| 開設／<br>拡張 | 種類   | 区分 | 路線名  | 延長及び<br>箇所数 | 利用区域<br>面積 | 前半5<br>カ年の<br>計画箇<br>所 | 対図<br>番号 | 備考 |
|-----------|------|----|------|-------------|------------|------------------------|----------|----|
| 開設        | 自動車道 |    | フゴッペ | —1          |            |                        |          |    |
| 開設        | 自動車道 |    | 小登川  | —1          |            |                        |          |    |

## イ 細部路網の整備に関する事項

### ①細部路網の作設に関する留意点

継続的な使用に供する森林作業道の開設について、林道との関連の考え方や丈夫で簡易な規格・構造の路網を整備する観点等から、森林作業道作設指針（平成22年11月17日付け林整第656号林野庁長官通知）を基本として、道が定める森林作業道作設指針（平成23年3月31日付け森整第1219号北海道水産林務部長通知）に則り開設します。

### (3) 基幹路網の維持管理に関する事項

「森林環境保全整備事業実施要領」（平成14年3月29日付け13林整第885号林野庁長官通知）、「民有林林道台帳について」（平成8年5月16日8林野基第158号林野庁長官通知）等に基づき、管理者を定め、台帳を作成して適切に管理します。

## 第6 委託を受けて行う森林の施業又は経営の実施の促進に関する事項

### 1 森林の経営の受委託等による森林の経営規模の拡大に関する方針

余市町における一般民有林の森林所有者は、5ha以下の森林を有する小規模森林所有者が所有者数の96%、面積の75%と大半を占める。また、管内の一般民有林のうち、39%は、カラマツ等の人工林であり、間伐や主伐の対象となることから、施業の集約化による施業コストの低減と木材の安定供給を図る必要があります。このため森林組合及びその他の民間林業事業体による森林経営の受託や林地流動化の促進により、森林経営の規模拡大を推進します。

### 2 森林の施業又は経営の受託等による規模拡大を促進するための方策

委託を受けて行う森林の施業又は経営の実施等については、森林所有者等への働きかけ、施業集約化に向けた長期の施業の受委託など森林の経営の受委託に必要な情報の入手方法の周知をはじめとした普及啓発活動のほか、森林情報の提供及び助言・あっせんなどを推進し、意欲ある森林所有者・森林組合・民間事業体への長期の施業等の委託を進めるとともに、林業経営の委託への転換を目指すこととします。その際、長期の施業等の委託が円滑に進むよう、施業内容やコストを明示した提案型施業の普及及び定着を促進します。

併せて、今後、間伐等の適切な整備及び保全を推進するための条件整備として、境界の整備など森林管理の適正化を図ることとします。

### 3 森林の施業又は経営の受託等を実施する上で留意すべき事項

森林の施業又は経営の受託を実施する際には、受託者である森林組合・林業事業体と委託者である森林所有者が森林経営受委託契約を締結することとします。

なお、森林経営受委託契約においては、森林経営計画の計画期間内（5力年間）において、自ら森林の経営を行うことができるよう造林、保育及び伐採に必要な育成権等が付与されるようにすることに加えて、森林経営計画が施業の行う森林のみならず、当面の施業を必要としない森林に対する保護も含めた計画となるよう委託事項を適切に設定することに留意する



ほか、森林経営計画の実行・監理に必要な路網の設置及び維持運営に必要な権原や、森林整備に要する支出の関係を明確化するための条項を適切に設定することに留意します。

## 第7 森林施業の共同化の促進に関する事項

本町に森林を有する町、個人等森林所有者及び森林組合等で相互に連絡を密にして、官民一体となった森林施業の共同化、林業後継者の育成、林業機械化の促進及び木材流通・加工体制の整備など、長期展望に立った林業諸施策の総合的な導入と実施を計画的かつ組織的に推進することとします。

### 1 森林施業の共同化の促進方法

本町の一般民有林面積の75%を占める林家等の森林所有者は5ha未滿の小規模所有であり、森林施業を計画的、重点的に行うため、町、森林組合、森林所有者等地域ぐるみで推進体制を整備することとします。

### 2 施業実施協定の締結その他森林施業の共同化の促進方策

小規模な森林所有者が多い本町において、林家個人で伐採、造林、保育及び間伐等を計画的に実施し、良質材の生産を目指すことは困難であるため、施業の共同化を助長し、合理的な林業経営を推進する必要があります。

また、森林管理に対して消極的な森林所有者に対しては、地区集会等への参加を呼びかけるとともに、その地区集会を利用して、また、不在村森林所有者については、町及び森林組合が、ダイレクトメール等を利用して、森林の機能及び森林管理の重要性を認識させるとともに、林業経営へ参画意欲の拡大を図り、施業実施協定への参画を促すこととします。

### 3 共同して森林施業を実施する上で留意すべき事項

森林所有者等が共同して森林施業を実施する場合には、次の事項に留意することに努めることとします。

- ① 共同して森林施業を実施しようとする者（以下「共同施業実施者」という。）は、一体として効率的に施業を実施するのに必要な作業道、土場、作業場等の施設の設置及び維持管理の方法並びに利用に関し必要な事項をあらかじめ明確にしておくべきこと。
- ② 共同施業実施者は、共同して実施しようとする施業の種類に応じ、労務の分担又は相互提供、林業事業者への共同による施業委託、種苗その他の共同購入等共同して行う施業の実施方法をあらかじめ明確にしておくべきこと。
- ③ 共同施業実施者の一人が①又②により明確にした事項につき遵守しないことにより、他の共同施業実施者に不利益を被らせ又は森林施業の共同化の実効性が損なわれることのないようあらかじめ、施業の共同実施の実効性を担保するための措置について明確にしておくべきこと。

## 第8 その他森林整備の方法に関し必要な事項

### 1 林業に従事する者の養成及び確保に関する事項

林業に従事する者の養成及び確保については、就業相談会の開催、就業体験等の実施及び技能・技術の習得のための計画的な研修の実施等による林業就業者のキャリア形成支援並びに森林組合等の林業事業体における雇用関係の明確化及び雇用の安定化による他産業並みの労働条件の確保等雇用管理の改善並びに事業量の安定的確保、合併・協業化及び生産性の向上等による事業の合理化を一体的・総合的に促進するとともに、その支援体制の整備に努めることとします。

また、経営方針を明確化し、林業経営基盤を強化することにより、地域の林業の担い手となり得る林業経営体及び林業事業体を育成し、林家等に対する経営手法・技術の普及指導に積極的に取り組むとともに、適切な森林施業を行い、労働安全管理に努める林業事業体を活用し、森林所有者の施業の円滑化を推進することとします。

#### ア 人材の育成・確保

新規的林業就業者や専門的知識を有する技術者の養成、高性能林業機械など高度な運転技術が必要とされるオペレーターや次世代を担う中堅労働者を対象とした作業リーダーの育成など、研修制度の充実を図るとともに、林業への新規参入や就労の長期化を促進するための支援などを総合的に推進し、人材の育成及び確保を図ることとします。

また、新規の森林所有者、若手林業後継者及び林業グループに対し、経営手法や技術の普及指導を図り、後継者等が安定して林業経営を維持できるよう支援することとします。

#### イ 林業事業体の経営体質強化

年間を通じた林業従事者の就労を確保するため、林業事業体における森林整備事業の掘り起こしや林業経営コンサルタントなど、経営の多角化や協業化、合併等による広域化を進め経営の体質強化、高度化を促進することとします。特に地域の森林における森林整備の中心的な担い手や山村地域の雇用の受け皿として、重要な役割を担う森林組合の経営基盤の強化が必要であるため、組織体制の充実や事業活動の強化、合併の推進などを図り、地域の中核となる森林組合の育成に努めることとします。

また、未利用材を有効活用した製品の提供や森林見学ツアー等の森林空間を活用した森林関連ビジネスを支援することとします。

さらに、北海道において、森林整備等を行う林業事業体の基本的情報等を登録し、公表する「北海道林業事業体登録制度」創設されたことから、本町においても、森林整備等を林業事業体に委託して実施するにあたり、適切な森林施業を行い、労働安全衛生管理に努める登録林業事業体の活用に努めます。

### 2 森林施業の合理化を図るために必要な機械の導入の促進に関する事項

#### (1) 林業機械化の促進方向

本町の森林の人工林は7齢級以下が大半であり、保育、間伐等の森林施業が最も必要な時期となっています。また、今後においては主伐期を迎える人工林が徐々に増加する傾向にあります。しかし、林家の経営は零細で、かつ、林道等の基盤整備が十分でないことな

どから、機械化の遅れは顕著です。

また、林業就労者の減少及び高齢化の傾向の中、生産性の向上、労働強度の軽減及び生産コストの低下を図るために林業機械化は必要不可欠であり、傾斜地の多い地形条件や樹種等に対応した機械化は重要な課題となっています。

このようなことから、高性能機械を主体とする林業機械の導入を促進し、林業における安全性の確保及び生産コストの低減を推進することとします。

## (2) 高性能機械を主体とする林業機械の導入目標

| 区 分               |          | 現状（参考）         | 将 来                      |
|-------------------|----------|----------------|--------------------------|
| 伐 倒<br>造 材<br>集 材 |          | チェーンソー         | チェーンソー                   |
|                   |          | チェーンソー         | ハーベスト<br>チェーンソー<br>プロセッサ |
|                   |          | 林内作業車<br>小型集材機 | 林内作業車<br>小型集材機           |
| 造 林<br>保育等        | 地拵<br>下刈 | チェーンソー<br>刈払機  |                          |
|                   | 枝打       | 人力             | リモコン自動枝打機                |

## (3) 林業機械化の促進方策

林業機械の導入に関する方策は、次のとおりです。

- ①森林組合によるハーベスト、プロセッサ等の高性能林業機械の導入
- ②森林組合を中心とした枝打ち作業等による森林施業の機械化を推進
- ③間伐の早急な実施を推進するため、森林組合の林内作業車、集材機等の導入
- ④高性能林業機械のオペレーターを育成するため研修会等への積極的参加等の推進

## 3 林産物の利用の促進のために必要な施設の整備に関する事項

地域の森林・林業、木材産業等の活性化及び木材自給率の向上を図るためには、地域で生産された木材を地域で消費する「地材地消」の推進が重要です。このため、地域材の利用に向けた町民への普及啓発活動や、工務店・設計会社等との連携などに取り組むとともに、一般消費者への周知を徹底し、需要促進を図るよう努めることとします。

また、地材地消の推進に当たっては、公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律に基づき、北海道が策定した「北海道地域材利用推進方針」（平成23年3月策定）に即して公共建築物において積極的に木材、木製品を利用するほか、住宅用建築材をはじめ、森林バイオマスエネルギーへの活用など、幅広い用途での地域材の利用を促進しつつ、このような需要に対し地域材を安定的に供給するため、木材流通の合理化や木材産業の体質強化を推進することとします。

### Ⅲ 森林の保護に関する事項

#### 第1 鳥獣害の防止に関する事項

##### 1 鳥獣害防止森林区域及び当該地区内における鳥獣害防止の方法

エゾシカによる森林の被害状況に応じ、被害防止するため措置をすべき森林の区域及び当該区域内におけるエゾシカ被害防止の方法について、次のとおり定めます。

###### (1) 区域の設定

「鳥獣害防止森林地域の設定に関する基準について（平成28年10月20日付け28林整研第180号林野庁長官通知）に基づき、エゾシカによる森林被害の状況等を把握できる全国共通のデータ及び、エゾシカ被害マップデータ等に基づき、食害や剥皮等の被害がある森林又はそれら被害がある森林の周辺に位置し被害発生のおそれがあるなど、エゾシカによる被害を防止するための措置を実施すべき森林を林班単位で別表3のとおり定めます。

また、区域は必要に応じ、試験研究機関の論文等の文献、森林における各種調査、地域住民等からの情報その他、エゾシカによる森林被害又は生息情報により補正することとします。

###### (2) 鳥獣害防止の方法

森林の的確な更新及び造林木の確実な育成を図るため、次のとおりエゾシカによる被害の防止に効果を有すると考えられる方法により、次の（ア）又は（イ）に掲げるエゾシカ防止対策を状況に応じ単独で又は組み合わせ推進するとともに、被害防止対策については特に人工植栽が予定されている森林を中心に推進することとします。

なお、（ア）に掲げる防護柵については改良等を行いながら被害防止効果の発揮を図るよう努めるとともに、エゾシカ防止対策の実施に当たっては鳥獣保護管理施策や農業被害対策等と連携・調整することとします。（関連計画：北海道エゾシカ管理計画、鳥獣被害防止計画）

特に、生息密度が高い地域においては巡回などにより被害状況等森林の状態を的確に把握し、被害が発生し、又はそのおそれのある森林については森林組合、林業事業者等の関係機関と連携し、適切な鳥獣害防止対策を早期に行うよう努めることとします。

###### （ア）植栽木の保護措置

防護柵の設置又は維持管理、忌避剤散布や幼齢木保護具の設置、枝条巻き、剥皮防止帯の設置、現地調査等による森林のモニタリング・巡視等を実施します。

###### （イ）捕獲

わな捕獲（ドロップネット、くくりわな、囲いわな、箱わな等によるものをいう。）、誘因狙撃等の銃器による捕獲等を実施します。

##### 2 その他必要な事項

鳥獣害防止森林区域においては、エゾシカの被害防止対策が適切に実施されているかどうかを現地調査や各種会議での情報交換、林業事業者や森林所有者等からの情報収集等を

行うこと等により確認することとします。

また、食害の生じるおそれがある地域については、造林樹種の選定に当たりアカエゾマツ等の嗜好性の低い樹種の植栽を検討することとします。

## 第2 森林病害虫の駆除及び防除、火災の防除その他の森林の保護に関する事項

### 1 森林病害虫の駆除又は予防の方法等

#### (1) 森林病害虫の駆除及び予防の方針及び方法

森林病害虫については、被害の早期発見及び早期防除に努め、当該病害虫の種類や被害の程度に応じ、薬剤の塗布、被害木の伐倒・整理など適切な方法により防除を行うものとします。

なお、森林病害虫のまん延のために緊急に伐倒駆除する必要性が生じた場合等については、伐採の促進に関する指導等を行う場合があります。

#### (2) その他

森林病害虫の被害の早期発見、早期防除のため、本町と道の振興局、林業試験場、森林組合、その他林業関係者が連携して対応します。

### 2 鳥獣による森林被害対策の方法（第1に掲げる事項を除く）

(ア) エゾヤチネズミによる食害の発生を防ぐため、カラマツ植栽地においてはネズミの生息場所となる枝条のたい積を避けるとともに、可能な場合は耐鼠性の高い樹種を植栽するなどの対策を行います。また、ネズミの発生動向も踏まえ、必要に応じて殺鼠剤の散布や防鼠溝の設置などの対策を実施することとします。

(イ) 鳥獣害防止森林区域外のエゾシカ及びその他の野生鳥獣による被害については、その早期発見に努めるとともに、試験研究機関等と連携し、発生原因の究明及び防除技術の開発等を行い早期防除に努めることとします。

(ウ) 森林の保護に当たっては森林組合等の関係機関及び地域住民との一層の協力のもとに、地域の実情に応じて、野生鳥獣の生息環境となる針広混交の育成複層林や天然生林に誘導するなど、野生鳥獣との共存に配慮した対策を適切に推進することとします。

### 3 林野火災の予防の方法

山火事等の森林被害を未然に防止するため、林内歩道等の整備を図りつつ、森林巡視、山火事警防等を適時適切に実施するとともに、防火線、防火樹帯等の整備を推進することとします。

また、春先の乾燥時期には森林巡視を強化するほか、森林の保護及び管理を要する重点地域を設け、効果的な防火線・防火道等の整備や保護標識、消火器格納庫等の施設を設置することとします。

#### 4 森林病害虫の駆除等のための火入れを実施する場合の留意事項

森林病害虫の駆除等のため、火入れを実施する場合は、余市町火入れに関する条例（昭和59年6月1日条例第10号）に基づき実施することとする。

#### 5 その他必要な事項

##### (1) 病害虫の被害を受けている等の理由により伐採を促進すべき林分

現在該当する林分はないが、病害虫の蔓延のため緊急に伐倒駆除する必要が生じた場合等については、ここに定める森林以外の森林であっても、伐採の促進に関する指導等を行うことがあります。

##### (2) その他

ア 気象害については、過去の被害事例を参考に保護樹帯を設けるなどの防止対策に努めることとします。

イ 森林の巡視に当たっては、民有林の中で、森林レクリエーションのための利活用者が特に多く、山火事等の森林被害が多発するおそれのある地域を重点的に実施することとし、特に、森林法違反行為の未然防止、山火事の防止、森林の産物の盗採等の防止、森林被害の早期発見等を重点的な点検事項とします。

また、自然公園や自然環境保全地域、鳥獣保護区等の区域、貴重な野生生物の生息・生育地域、盗採等の違反行為のおそれがある地域、主要な展望地や園地など利用者の入り込みが多い地域、山火事等の発生が懸念される地域等においては、自然保護監視員、鳥獣保護員、林業関係者等が相互に連携して、巡視活動並びに利用者への指導を行うこととします。

#### IV 森林の保健機能の増進に関する事項

該当なし

#### V その他森林の整備のために必要な事項

##### 1 森林経営計画の作成に関する事項

森林所有者等が森林経営計画を作成し、計画に基づいた施業を実施することは、余市町森林整備計画の達成に寄与することにもつながることから、森林所有者等に対する制度の周知、作成に係る支援などにより計画の作成を推進します。

森林経営計画の作成にあたっては、次の事項について適切に計画するものとします。

(1) IIの第2の3の植栽によらなければ的確な更新が困難な森林における主伐後の植栽

(2) IIの第4の公益的機能別施業森林の施業方法

(3) IIの第6の3の森林の施業又は経営の受託等を実施する上で留意すべき事項及びIIの第7の3共同して森林施業を実施する上で留意すべき事項

(4) IIIの森林病虫害の駆除又は予防その他森林の保護に関する事項

## 2 森林の整備を通じた地域振興に関する事項

本町における木材の生産流通・加工については、価格の安い輸入産物が中心となっている現状を背景に低迷しており、また、製材工場の拡大も望めない現状にあります。

木材を活用した地域活性化の施策としては、間伐材を中心にその計画的実行を図り、間伐材の商品化及び需要開発を検討し地域活性化を図ることとします。

## 3 森林の総合利用の推進に関する事項

該当なし

## 4 住民参加による森林の整備に関する事項

森林に対する住民のニーズは高度・多様化しており、住民の理解と協力の下、地域住民や都市住民のニーズに応えた多様な森林整備を推進していくことが必要です。

また、様々な体験活動を通じて森林と関わる形での森林利用への期待が高まっていることから、森林所有者等の理解と協力を得ながら、開かれた森林を確保しその整備を進めるとともに、森林環境教育や健康づくり等の森林利用を推進していくこととします。

さらに、将来にわたって森林の整備・保全及び利用に対する地域住民の理解を得ていくためには、子どもの頃から森林や木材にふれ親しむとともに、学校教育の現場で森林や木材に対する興味や関心を深め、適切な知識を伝えていくことが重要です。このことから、子どもの頃から木を身近に使っていくことを通じて、人と木や森との関わりを主体に考えられる豊かな心を育む取り組みである「木育」を進めることとします。

### 【主な取り組み】

- ①住民参加による林業体験活動の推進（枝打ち、植樹）
- ②親子を対象とした「森林環境教育」の推進
- ③バリアフリーに配慮した歩道等の整備
- ④児童等を対象とした「木工クラフト教室」等の開催

## 5 その他必要事項

### (1) 特定保安林の整備に関する事項

特定保安林は、指定の目的に即して機能していないと認めらる保安林です。

その整備に当たっては、間伐等の必要な施業等を積極的かつ計画的に推進し、当該目的に即した機能の確保を図るものとします。

特に、造林、保育、伐採その他の施業を早急に実施する必要がある森林については、「要

整備森林」とし、森林の現況等に応じて、必要な施業の方法及び時期を明らかにしたうえで、その実施の確保を図るものとします。

なお、「要整備森林」は地域森林計画において指定されます。

(2) 法令等により施業について制限を受けている森林の施業方法

該当する法令に基づいて施業を行い、制限林が重複して指定されている場合は、制限が強い方の施業方法に基づいて行うよう留意します。

①保安林及び保安施設地区の区域内の森林

保安林及び保安施設地区の施業方法に係る一般的留意事項は、次のとおりです。

なお、保安林及び保安施設地区の施業方法については、個々の指定施業要件が定められていますが、制限の決定及び立木伐採の許可等の処理は、保安林制度の一環として行われますので留意が必要です。

ア 主伐の方法

(ア) 伐採できる立木は、市町村森林整備計画で定める標準伐期齢以上のものとします。

(イ) 伐採方法は、次の3区分とします。

- a 伐採方法の指定なし（皆伐を含む。）
- b 択伐（伐採区域内の立木を均等な割合で伐採するもの。）
- c 禁伐（全ての立木の伐採を禁止するもの。）

イ 伐採の限度

(ア) 皆伐面積の限度は、森林法施行令第4条の2第3項の規定に基づき公表される面積の範囲内とします。

(イ) 一箇所当たりの皆伐面積の限度は、次のとおり指定施業要件に定められています。

- a 水源かん養保安林（ただし、急傾斜地の森林及び保安施設事業の施行地等の森林その他森林施業上これと同一の取り扱いをすることが適当と認められる森林に限る。）については、20ha以下とします。
- b 土砂流出防備、飛砂防備、干害防備及び保健の各保安林については、10ha以下とします。
- c その他の保安林であって、当該森林の地形、気象、土壌等の状況を勘案し、特に保安機能の維持又は強化を図る必要があるものについては、20ha以下とします。

(ウ) 防風、防霧保安林については、標準伐期齢以上である部分を幅20m以上にわたり帯状



に残存させなければなりません。

(I) 択伐の限度は、当該森林の立木材積に択伐率を乗じて得られる材積を超えないものとします。

(カ) 初回の択伐率は、指定施業要件に定められている率とします。

また、2回目以降の択伐率は、伐採しようとする当該森林の立木の材積から前回の伐直後の当該森林の立木の材積を減じて得た材積を伐採しようとする当該森林の材積で除して算出し、この率が10分の3を超えるときは10分の3（指定施業要件で定められた条件を満たす場合には10分の4）とします。

#### ウ 特例

(ア) 伐期齢の特例の認められている保安林は、標準伐期齢に達していなくても伐採することができます。

(イ) 伐採方法についての特例は、択伐と定められている森林にあっては伐採指定なし、同じく禁伐と定められている森林については択伐とします。

(ウ) 特例の有効期限は、当該特例の指定日から10年を超えないものとします。

#### エ 間伐の方法及び限度

(ア) 間伐をすることができる箇所は原則として、樹冠疎密度が10分の8以上の箇所とします。

(イ) 間伐の限度は、該当森林の立木材積の100分の35を超えない範囲で、指定施業要件に定められた率とします。

#### オ 植栽の方法及び期間

(ア) 伐採跡地への植栽は、当該箇所に指定施業要件として定められた樹種及び本数を均等に分布するように行わなければなりません。

(イ) 植栽は、伐採が終了した年度の翌年度の初日から起算して2年以内に行わなければなりません。

#### ②自然公園特別地域内における森林

自然公園特別地域内における施業方法の決定は、表1の「特別地域内における制限」により行います。

表1 特別地域内における制限

| 区 分           | 制 限 内 容   |
|---------------|---|
| 特 別<br>保護地区   | 特別保護地区内の森林は、禁伐とします。   |
| 第 1 種<br>特別地域 | (1) 第1種特別地域内の森林は、禁伐とします。<br>ただし、風致の維持に支障のない場合に限り単木択伐法を行うことができます。<br>(2) 単木択伐法は、次の規定により行います。<br>ア 伐期齢は、標準伐期齢に見合う年齢に10年以上を加えて決定します。<br>イ 択伐率は、現在蓄積の10%以内とします。   |
| 第 2 種<br>特別地域 | (1) 第2種特別地域内の森林は、択伐法とします。<br>ただし、風致の維持に支障のない場合に限り皆伐法によることができるものとします。<br>(2) 道路などの公園事業に係る施設、集団施設地区の周辺（造林地、要改良林分、薪炭林を除く。）は、原則として単木択伐法によるものとします。<br>(3) 伐期齢は、標準伐期齢に見合う年齢以上とします。<br>(4) 択伐率は、用材林においては現在蓄積の30%以内とし、薪炭林においては60%以内とします。<br>(5) 特に指定した風倒木については、保育及び保護に努めることとします。<br>① 一伐区の面積は、2ha以内とします。<br>ただし、疎密度3より多くの保護木を残す場合又は車道、歩道、集団施設地区、単独施設等の主要公園利用地点から望見されない場合、伐区面積を増大することができます。<br>② 伐区は、更新後5年以上を経過しなければ連続して設定することはできません。<br>この場合においても、伐区は努めて分散しなければなりません。 |
| 第 3 種<br>特別地域 | (1) 第3種特別地域内の森林は、全般的な風致の維持を考慮して施業を実施し、特に施業の制限は設けないものとします。   |

③その他の制限林

その他の制限林における伐採の方法は、表2のとおりとします。

表2 その他の制限林における伐採方法

| 区 分         | 制 限 内 容   |
|-------------|---|
| その他の<br>制限林 | (1) 原則択伐とし、伐採率は蓄積の30%以内とします。<br>(2) 鳥獣保護区特別保護地区内の鳥獣の生息、繁殖又は安全に支障があると認められる森林については、択伐（その程度が著しいと認められるものについては禁伐）とします。<br>(3) 次の砂防指定地内の森林については、皆伐を行うことができます。<br>① 伐採面積が、1ha未満のもの。<br>② 森林経営計画で、皆伐として計画されたもの。<br>(4) 史跡、名称又は天然記念物に指定されている区域（伝統的建造物群保存地区を除く。）においては、禁伐とします。 |

(3) 森林施業の技術及び知識の普及・指導に関する事項

地域の特性に応じた具体的な施業の方法に関して、森林組合等の林業事業者、北海道指導林家や青年林業士など地域の関係者の合意形成を図り、適切な方法による間伐等の森林整備が進むよう道の指導機関と連携した普及啓発を進めます。

- (4) 森林の管理の状況等から公益的機能の維持・向上を図るために特に整備すべき森林に関する事項  
該当なし

別表1 公益的機能別施業森林及び木材等生産機能の維持増進を図る森林の区域

【一般民有林】

1 共通のゾーニング

| 区 分     | 森林の区域                                       |                                 | 面積 (ha) |
|---------|---|---------------------------------|---------|
|         | 林班  | 小 班                             |         |
| 水源涵養林   | 5   | 133~134、137~145、219~220         | 5       |
|         | 7   | 全域                              | 53      |
|         | 8   | 全域                              | 74      |
|         | 10  | 全域                              | 103     |
|         | 11  | 1~84、87~113                     | 107     |
|         | 12  | 全域                              | 49      |
|         | 13  | 1~69                            | 65      |
|         | 14  | 全域                              | 68      |
|         | 20  | 1~55、57~60、63~84                | 53      |
|         | 22  | 全域                              | 125     |
|         | 23  | 全域                              | 77      |
|         | 24  | 27                              | 2       |
|         | 26  | 14、71                           | 3       |
|         | 27  | 全域                              | 94      |
|         | 28  | 全域                              | 60      |
|         | 29  | 全域                              | 67      |
|         | 36  | 65、68~69                        | 2       |
|         | 40  | 1~66、69、71~84、87~110、114        | 41      |
|         | 41  | 1~52、54~60、62~72、74~141         | 53      |
| 42      | 1~23、25~27、36、40、47~75、77~79、81~125、129~131 | 136                             |         |
| 山地災害防止林 | 1   | 1~3、125                         | 1       |
|         | 2   | 159~160                         | 1       |
|         | 3   | 3、9~10、14、17、20、59              | 2       |
|         | 11  | 85                              | 1       |
|         | 13  | 70                              | 1       |
|         | 15  | 78~81                           | 1       |
|         | 19  | 34、53~55、57                     | 2       |
|         | 20  | 56、61~62                        | 1       |
|         | 26  | 1~4、73~74、77~78、84、97、100       | 5       |
|         | 36  | 39、46                           | 1       |
|         | 39  | 92~93                           | 1       |
|         | 40  | 67~68、70、85~86、111~113、115~117  | 1       |
|         | 41  | 53、61、73、142                    | 1       |
|         | 42  | 24、28~35、37~39、46、76、80、126~128 | 15      |

| 区 分         | 森林の区域                            |   | 面積 (ha) |
|-------------|----------------------------------|---|---------|
|             | 林班                               | 小 班                                       |         |
| 生活環境保全林     | 17                               | 1、3                                       | 1       |
| 保健・文化機能等維持林 | 1                                | 145                                       | 1       |
|             | 19                               | 57  | 1       |
| 木材等生産林      | 1                                | 4~124、126~144、146                         | 70      |
|             | 2                                | 1~158、161~195                             | 181     |
|             | 3                                | 1~2、4~8、11~13、15~16、18~19、<br>21~58、60~61 | 112     |
|             | 4                                | 全域  | 104     |
|             | 5                                | 6~132、135~136、146~218                     | 123     |
|             | 6                                | 全域  | 45      |
|             | 9                                | 1~46                                      | 82      |
|             | 15                               | 1~77、82                                   | 41      |
|             | 16                               | 全域  | 53      |
|             | 17                               | 2、6~7                                     | 2       |
|             | 18                               | 全域  | 39      |
|             | 19                               | 1~33、35~52、56                             | 27      |
|             | 21                               | 全域  | 54      |
|             | 24                               | 1~26                                      | 61      |
|             | 25                               | 全域  | 111     |
|             | 26                               | 5~70、72、75~76、80~83、85~96、<br>98~99       | 115     |
|             | 30                               | 全域  | 67      |
|             | 31                               | 全域  | 68      |
|             | 32                               | 全域  | 67      |
|             | 33                               | 全域  | 65      |
| 34          | 全域                               | 89  |         |
| 35          | 全域                               | 62  |         |
| 36          | 1~38、41~45、47~63、66~67、<br>70~75 | 42  |         |
| 37          | 全域                               | 101                                       |         |
| 38          | 全域                               | 102                                       |         |
| 39          | 1~91、98~165                      | 80  |         |

【道有林】

該当なし

別表2 森林施業の方法を特定すべき森林の区域  
【一般民有林】

| 区 分                             | 施業の方法  | 森 林 の 区 域 |  | 面積<br>(ha) | 森林経営計画における<br>主な実施基準<br>(参考)        |
|---------------------------------|--|-----------|--|------------|-------------------------------------|
|                                 |  | 林班        | 小 班  |            |                                     |
| 水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林 | 伐期の延長を推進すべき森林  | 5         | 133~134、<br>137~145、<br>219~220  | 5          | 主伐林齢：標準伐期齢＋<br>10年以上<br>皆伐面積：20ha以下 |
|                                 |  | 7         | 1~27、30~<br>33、35、37<br>~53、55~<br>56、58~60、<br>62~68、70、<br>72~77、<br>80~97 | 53         |                                     |
|                                 |  | 8         | 1~29、<br>31~35、38  | 74         |                                     |
|                                 |  | 10        | 1~31、<br>33~36、<br>37~52、<br>55~73   | 104        |                                     |
|                                 |  | 11        | 1~84、<br>87~113  | 107        |                                     |
|                                 |  | 12        | 全域   | 49         |                                     |
|                                 |  | 13        | 1~59、<br>61~69   | 65         |                                     |
|                                 |  | 14        | 全域   | 68         |                                     |
|                                 |  | 20        | 1~18、20、<br>23、25~35、<br>40~55、57、<br>60、63~84                               | 53         |                                     |
|                                 |  | 22        | 1~36、<br>38~54、<br>56~96   | 125        |                                     |
|                                 |  | 23        | 1~12、14、<br>18~22  | 79         |                                     |
|                                 |  | 24        | 27   | 2          |                                     |
|                                 |  | 26        | 14、71  | 2          |                                     |
|                                 |  | 27        | 1~38、<br>39~60   | 94         |                                     |
|                                 |  | 28        | 1~6、8~14、<br>16、18~23、<br>30~31  | 60         |                                     |
|                                 |  | 29        | 1~26、<br>30~31   | 67         |                                     |
|                                 |  | 36        | 65、68~69   | 1          |                                     |
|                                 |  | 40        | 1~30、<br>32~66、69、<br>71~84、<br>87~99、<br>101~110                            | 41         |                                     |
| 41                              | 1、3~38、<br>40~52、<br>54~60、<br>62~141  | 53        |  |            |                                     |
| 42                              | 1~3、6~14、<br>16~23、<br>25~27、36、<br>40、47~75、<br>77~79、<br>81~125<br>129~131 | 135       |  |            |                                     |

|   |                                 |                           |                     |                    |                                 |   |
|---|---------------------------------|---------------------------|---------------------|--------------------|---------------------------------|---|
| 水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林                                       | 伐採面積の規模の縮小を行うべき森林               | —                         | —                   | —                  | 主伐林齢：標準伐期齢＋10年以上<br>皆伐面積：10ha以下 |   |
| 森林の有する土地に関する災害の防止機能、土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林 | 長伐期施業を推進すべき森林                   | 26                        | 2～3、74、77～79、84、100 | 3                  | 主伐林齢：次表による<br>皆伐面積：10ha以下       |   |
|   | 複層林施業を推進すべき森林                   | 複層林施業を推進すべき森林（択伐によるものを除く） | —                   | —                  | —                               | 主伐林齢：標準伐期齢以上<br>伐採率：70%以下<br>その他：標準伐期齢時の立木材積の1/2以上を維持する         |
|   |                                 | 択伐による複層林施業を推進すべき森林        | 1                   | 1～3、125、145        | 1                               | 主伐林齢：標準伐期齢以上<br>伐採率：30%以下又は40%以下<br>その他：標準伐期齢時の立木材積の7/10以上を維持する |
|   |                                 |                           | 2                   | 159～160            | 1                               |   |
|   |                                 |                           | 3                   | 3、9～10、14、17、20、59 | 3                               |   |
|   |                                 |                           | 11                  | 85                 | 1                               |   |
|   |                                 |                           | 13                  | 70                 | 1                               |   |
|   |                                 |                           | 15                  | 78～81              | 1                               |   |
|   |                                 |                           | 17                  | 1、3                | 1                               |   |
|   |                                 |                           | 19                  | 34、53～55、57        | 2                               |   |
|   |                                 |                           | 20                  | 56、61～62           | 1                               |   |
|   |                                 |                           | 26                  | 1、4、73、97          | 3                               |   |
|   |                                 |                           | 36                  | 39、46              | 1                               |   |
|   |                                 |                           | 39                  | 92～93              | 1                               |   |
| 40  | 67～68、70、85～86、111～113、115～117  | 1                         |                     |                    |                                 |   |
| 41  | 53、61、73、142                    | 1                         |                     |                    |                                 |   |
| 42  | 24、28～35、37～39、46、76、80、126～128 | 16                        |                     |                    |                                 |   |
|   | 特定広葉樹の育成を行う森林施業を推進すべき森林         | —                         | —                   | —                  | 特定広葉樹について、標準伐期齢時の立木材積を維持する      |   |

注1 森林経営計画を作成して施業を行う場合、本表の区分毎の具体的な施業方法については、注2、注3に定める方法のほか、農林水産省令(森林法施行規則)で定められる実施基準に適合した方法とする必要があります。

注2 「伐採面積の規模の縮小を行うべき森林」では、森林経営計画の実施基準として、皆伐の1伐区あたりの伐採面積は10ha以下とする必要があります。

注3 「長伐期施業を推進すべき森林」では、森林経営計画の実施基準として、主伐可能な林齢を次のとおりとする必要があります。

別表3 鳥獣害を防止するための措置を実施すべき森林

| 対象鳥獣の種類 | 森林の区域                       | 面積(ha)    |
|---------|-----------------------------|-----------|
| エゾシカ    | 1～2、4～8、10～11、15、17、22～23林班 | 1001.75ha |

長伐期施業を推進すべき森林における樹種別の主伐可能な林齢

|       | 樹 種                     | 主伐可能な<br>林齢 |
|-------|-------------------------|-------------|
| 人 工 林 | エゾマツ・アカエゾマツ             | 96年以上       |
|       | トドマツ                    | 64年以上       |
|       | カラマツ（グイマツとの交配種含む）       | 48年以上       |
|       | その他針葉樹                  | 64年以上       |
|       | カンバ・ドロノキ・ハンノキ（天然林を含む）   | 48年以上       |
|       | その他広葉樹                  | 64年以上       |
| 天 然 林 | 主として天然下種によって<br>生立する針葉樹 | 96年以上       |
|       | 主として天然下種によって<br>生立する広葉樹 | 128年以上      |